

## ■「令和3年度経験年数別研修講座」の主な特徴点

～ つながって学び、来て深める県総合教育センターへ ～

### 特徴① 校内研修とセンターでの研修の連動！

- ・センターにおける研修講座（集合研修）前に、各校での校内研修として、eラーニング研修講座（1時間カウント）を視聴します。センターの集合研修では、講義時間を短縮し、協議・演習等を重視し、実践的な研修の充実を図ります。

【例：初小第2日（学習指導）は、事前に「学習指導の基礎基本のeラーニング動画」を視聴した上で参加。】

### 特徴② eラーニング研修動画を有効に活用する！

- ・「研修用の資料を提供してほしい」「指導教員の負担軽減を図りたい」という学校現場からの要望から、50本以上の研修動画を作成しました。校内研修150時間（初任研）に位置付けて視聴します。繰り返しの視聴や、焦点化した活用等、ニーズに応じて工夫できます。

アドレス <https://www.pref.okayama.jp/page/702315.html>



### 特徴③ GIGAスクール構想の実現に向けた基礎研修の実施！

- ・全ての校種、全ての経験年数別研修においてタブレット等を活用した実践的な研修を実施します。また、「教育の情報化ユニット研修」と併用することで、GIGA スクール構想の実現に向けた基礎研修を実施します。

### 特徴④ 中堅研を共通研修5日、選択研修2日に！

- ・昨年度まで実施していた系・コースを廃止します。全受講者に共通して伸ばしたい資質能力の育成を図るため、中堅研を共通研修5日、選択研修2日とします。

### 特徴⑤ 事務手続き・提出書類の簡略化を図る！

- ・ペーパーレス、デジタル化の推進に向け、経験年数別研修の様式を電子データによる提出とし、記入内容の簡略化も図りました。

【例：研修教員報告書・校内研修計画書（様式①）、校内研修報告書（様式②）は、時数のみ。】

## ■その他の変更点

### 希望研修を『専門研修』として実施！

- ・第3次岡山県教育振興基本計画の実現に向け、「夢育」「地域学・PBL」「GIGA・DX」を推進するために必要な専門研修を行います。

【例：おかやま ICT 活用実践報告研修講座（GIGA）、予測困難な時代に対応するイノベーション力育成管理職研修講座（DX）】

Web ページ上で案内しますので、受講を御検討ください。

研修講座の改善・充実を通して、これからも教職員の資質向上を支援していきます。

# 羅針盤

令和3年度 第2号(通算328号)  
令和3年5月26日(水) 発行  
岡山県総合教育センター 企画部  
Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

## 『生徒指導・教育相談 e ラーニングシリーズ』『校内研修パッケージ』の紹介!

新年度がスタートし、早2か月が過ぎようとしています。学級(HR)や部活動、学年全体を運営していく中でお悩みはありませんか? 今回は、学習ルールや規律づくり、子ども同士の人間関係、保護者との連携など、生徒指導・教育相談に関する学びや研修のために、総合教育センターが作成した**すぐに活用できる e ラーニング&研修パッケージシリーズ**をご紹介します。

### e ラーニングシリーズ



短い時間で学ぶ手段はないかなあ…

基礎基本を見直して、自分の力量を向上したいなあ…

同僚に紹介して時間があるときに見てほしいなあ…

「授業の中での  
生徒指導」  
「児童・生徒理解」

「不登校・長期欠席  
の理解と対応」

「上手な聴き方・伝え方」  
「保護者との関係  
づくり」



1本 10~20 分程度の動画です。

### 生徒指導校内研修パッケージ

演習や協議を通して  
共通理解を深め、同僚  
性を高めたい…

協議の時間をしっかり  
持てるような研修をし  
たい…

学校の実情に応じて  
研修をカスタマイズ  
して行いたい…



進行役の先生が  
読み上げる説明原稿  
(シナリオ) 付き!

配付資料・  
ワークシート等が  
セットに!

必読

生徒指導担当者



あなたの学校の生徒指導を応援する  
**校内研修パッケージ**

楽

印刷すれば  
すぐできる!

安

シナリオ付きで  
進行役も安心!

学

協議・演習中心で  
楽しく学べる!

早

60分以内で  
終わる!



センターホームページ

⇒「生徒指導・教育相談 e ラーニングシリーズ」

<https://www.pref.okayama.jp/page/717130.html>

⇒「生徒指導校内研修パッケージ」

<https://www.pref.okayama.jp/page/688891.html#seito>



e ラーニング



研修パッケージ

悩んだり、つまずいたりしたときは、視点を変えてみることも大切です。

岡山県総合教育センターはさまざまな方法で、先生方を支援します!

# 羅針盤

令和3年度 第3号 (通算329号)

令和3年6月25日(金) 発行

岡山県総合教育センター 企画部

Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

岡山県内の各学校では、新学習指導要領の実施と併せて、GIGAスクール構想の実現に向けた取組が進んでいます。ICTを活用した効果的な指導、1人1台端末を活用した児童生徒の主体的な学習、遠隔技術の活用、校務の効率化など、今まで以上に教育の情報化の推進が重要となっています。

県総合教育センターでは、このような状況に対応できる教職員を育成するため、次のとおり、ICT活用の指導力向上を目指した研修を充実させていきます。

## 令和3年度 GIGAスクール構想の実現に向けた取組

県教委における重点方針

夢育  
非認知能力

**GIGAスクール構想の実現  
DX戦略による学校教育の変革**

地域学  
PBL

### 研修講座

#### 研修講座

教育の情報化に関する研修講座

- **経験年数別研修講座**  
初任・3年・中堅・16年
- **悉皆研修**  
【管理職研修】小中高特  
校長・副校長・教頭  
【事務職員研修】  
新採・主任・主幹
- **専門研修**  
次世代リーダー養成研修講座  
教科研修(各教科)  
実践発表・キャプテン研修  
小学校プログラミング  
管理職対象DX研修

### 調査研究

#### ICT活用実践事例の収集

好事例の収集と情報提供

- **情報収集**  
各校との連携体制・事例取材  
GIGA取組のアンケート
- **情報提供**  
おかやまICT活用実践事例集  
教育の情報化ユニット研修  
Facebook

#### 遠隔技術の活用

ハイブリッド型・ハイフレックス型  
研修の推進

- ・技術の習得  
(遠隔授業・授業配信・動画作成)

### 研修支援

#### 研修支援

地区研修と校内研修の支援  
遠隔研修にも対応

- ・教育クラウド研修活用研修
- ・1人1台端末活用研修
- ・授業でのICT活用場面研修
- ・主体的な学習活動を考える研修

#### 教育の情報化ユニット研修

オンラインで研修できる研修資料

- **GIGA端末導入期編**  
31項目のICT活用指導力を育成  
動画と資料 1ユニット15分
- **授業づくり編**(新規作成)  
授業改善と効果的なICT活用  
授業場面動画と解説

## 教育の情報化研修の3つのポイント

### Point 1

全ての経験年数別研修、  
管理職研修でGIGAス  
クールに関する研修内容  
を実施します。

### Point 2

特徴のある学校の取組や  
実践を取材し、Webサイト  
や研修講座などを通して  
情報提供を行います。

### Point 3

集合研修以外にもeラーニ  
ング研修や遠隔研修など  
の研修形態を用意します。

現在、県総合教育センターでは、新型コロナウイルス感染症対策のため、集合研修を見合わせ、遠隔研修を実施しています。学校現場で活用できるさまざまなアプリの機能等も取り入れながら、研修の充実・改善に努めています。

「おかやまICT活用実践事例集」と「教育の情報化ユニット研修」は、センターHPからアクセスできます。ぜひご活用ください。

詳細⇒ <https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/>





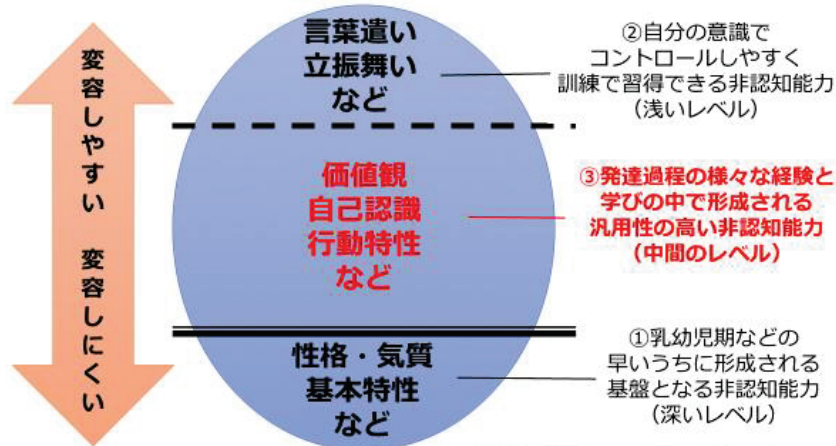
## 非認知能力の育成に向けて

「第3次岡山県教育振興基本計画」では、子どもたちの学びの原動力である夢を育む「夢育」を進め、意欲や自信などの「自分を高める力」を引き上げ、学力や体力、規範意識や「人間関係構築力」を身に付けさせることが重要とされています。この「自分を高める力」や「人間関係構築力」などは、「非認知能力」と呼ばれ、新学習指導要領で育成すべき資質・能力の一つである「学びに向かう力・人間性等」にも含まれており、現在注目されています。非認知能力の育成に向けて、下記の視点やポイントを参考に見てみてください。

### 非認知能力の3つのレベル

非認知能力を変容のしやすさで分けたものが右図です。①深いレベルは、個人が早い段階から持つ性格や気質、基本特性などです。②浅いレベルは、自分の意思でコントロールしやすい言葉遣いや立振舞いなどの表面的なスキルです。③中間レベルは、価値観や自己認識、行動特性などで、発達過程の様々な経験と学びの中で形成される、汎用性の高い非認知能力です。意識することで変え、伸ばすことができる力といわれています。

### 3つのレベルから見る非認知能力の段階



### どうすれば伸びるのか

#### プロセスの中を見取るレンズが必要

漠然とした「がんばった (がんばっている) ね」を噛み砕く  
→プロセスの中を見取り、意識づけるための**レンズ**！

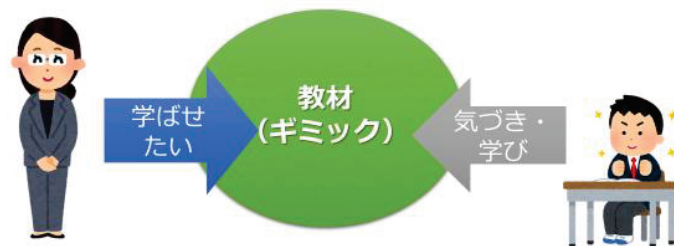


目標に向かうプロセスの中で、「自分を高めようとしているか？」等、3つの観点（非認知能力レンズ）で、子どもの活動を見つめることがポイントとなります。

子どもたちの姿や、その変化をより意識的に見取り、その価値を認め、フィードバックし共有することが、非認知能力を伸ばしていくと考えられます。

学ばせたいことを直接教えずに教育活動へ**ギミック (仕掛け)**として仕込んでおく。

→主体的・対話的で深い学びの実現



相互主体的な学びを作り出すための教材  
(PBLのプロジェクト活動、ディスカッション・・・など)

教員は学校での様々な教育活動の中で、学ばせたいことを基に、子どもたちを引きつける教材を選び、適切なタイミングで用いていると思います。そうした意図的な仕掛け（ギミック）を選ぶ時の視点に、「非認知能力を伸ばすための視点」を加えることが大切です。

例えば、授業で使用する教材、学級活動や学校行事、教室や廊下の掲示物での意識付けもその一つです。

出典：中山芳一『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』東京書籍（2018）

岡山県総合教育センターでは、岡山大学全学教育・学生支援機構 中山芳一准教授に監修いただき、**津山市立河辺小学校の実践**も紹介した非認知能力の育成についての動画を作成し公開しています。  
詳細はセンターホームページからアクセスできます。ぜひご活用ください。



# 羅針盤

令和3年度 第6号 (通算332号)  
令和3年9月15日(水) 発行  
岡山県総合教育センター 企画部  
Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

## ハイフレックス型授業※の参考にしてください

令和3年7月21日から、県総合教育センターで行うすべての研修講座を対象に、集合研修を来所して受講するか、その研修の配信を学校で遠隔受講するかを選択できるハイフレックス型研修を導入しました。遠隔研修で参加した場合も、協議や演習等の活動に参加でき、集合研修で参加した場合と同等の研修を受けることができるよう、日々遠隔研修技術の向上に努めています。

今回は、今までのハイフレックス型研修で培ったノウハウのうち、機材の準備・配信のポイントを紹介します。各校でもICT機器を使った様々な取組を行っていると思いますが、授業配信の参考にしてください。

今、校内にあるICT機器で、できるところから始めましょう。

※対面とオンラインのどちらでも受けることができる授業形式を指します。

### 研修室の基本レイアウト



### 使用機材・システム

#### 【機材】

- ①プロジェクタ
- ②スクリーン(ホワイトボード)
- ③講師用PC
- ④配信用PC
- ⑤Webカメラ(orデジタルビデオカメラ)・三脚
- ⑥スピーカーマイク(orヘッドセット)

#### 【ケーブル類】

USB延長ケーブル  
HDMIケーブル  
映像変換アダプタ など

#### 【Web会議システム】

Zoom、Google Meet など

### 配信のポイント

- 【映像】・PC内蔵カメラでも配信できますが、USB延長ケーブルに接続したWebカメラを三脚に取り付けると、カメラ配置の自由度が増します。
  - ・デジタルビデオカメラはズーム機能を利用することができます。(映像変換アダプタが必要)
  - ・三脚にタブレット端末を取り付けて配信することもできます。
  - ・実物投影機をWebカメラとして接続すると、教科書やワークシートを直接映して配信することができます。
- 【音声】・音声配信にWebカメラやPCの内蔵マイクも利用できますが、部屋の大きさに適したスピーカーマイクを別に準備すると音声がきれいに届きます。
  - ・スピーカーマイクを置く位置で音声に差が出ます。よく聞こえる位置を探してみてください。
  - ・ハウリング対策が必要です。(室内で複数の端末を使う際は、メインの端末以外のマイクをミュートにしておく。)
- 【その他】・Web会議システムのチャット機能を活用する。(質問や音声トラブルの際に文字でやり取りできる。)
  - ・配信をサポートする人員の配置が望ましい。

### 参 考

- ・やむを得ず学校に登校できない児童生徒へのICTを活用した学習指導等を行うためのチェックリスト(文部科学省)

[https://www.mext.go.jp/content/20210827-mxt\\_jogai02-000017631\\_00002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210827-mxt_jogai02-000017631_00002.pdf)

- ・「教育の情報化ユニット研修」<unit 20 実践遠隔授業(授業づくりと模擬授業)>

<https://www.youtube.com/watch?v=E-t-Hgjnqjs>



# 羅針盤

令和3年度第7号(通算333号)  
令和3年9月27日(月)発行  
岡山県総合教育センター 企画部  
Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

## 児童生徒の SOS に組織的に気付き、対応できていますか？

2学期になり、1か月が過ぎようとしています。児童生徒の様子はいかがでしょうか？今年度もコロナ禍で通常よりも強いストレス下での生活を余儀なくされています。児童生徒のもつ不安や悩みに早く気付くことが、不登校やいじめなどの未然防止や、安心して学習に向かう土台づくりにつながります。



## 【キーワードは“見る”と“聴く”、そして“集める”。児童生徒の実態把握を！】

### “見る”

- ☐ 普段の表情
- ☐ 体調(頭痛・腹痛など)
- ☐ 友人関係
- ☐ 授業中の姿勢や集中の様子
- ☐ 服装・頭髮
- ☐ 家庭環境
- ☐ 生活ノートなどの記述 など

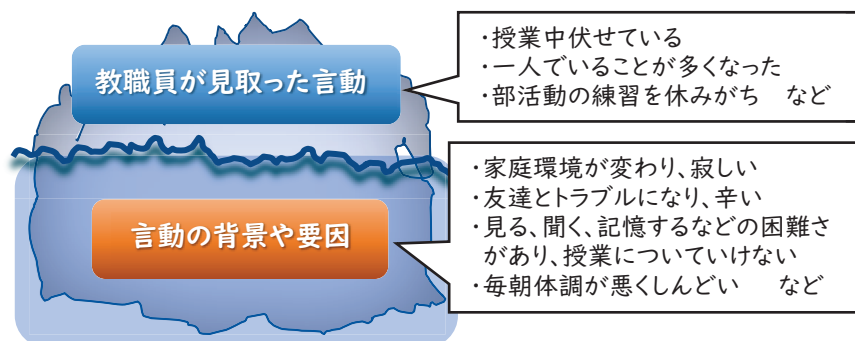
### “聴く”

- ☐ 教師との会話(積極的に話を聴く)
  - ☐ 友人との会話
  - ☐ 授業中のグループ内での発言
  - ☐ 教育相談 など
- ※児童生徒の「大丈夫」を鵜呑みにせず、注意すること。「言葉の向こう側にあるもの(心)」を感じ取る。

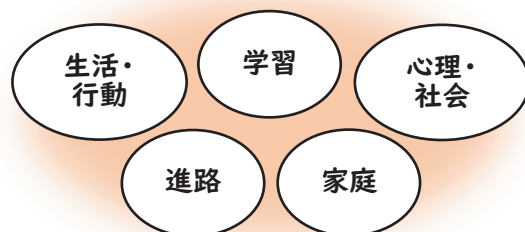
### “集める”

- ☐ 教科担任から
  - ☐ 他の児童生徒から
  - ☐ 養護教諭・SC・SSW から
  - ☐ クラブ・部活動顧問から
  - ☐ 保護者・地域から など
- ※生徒指導、特別支援教育コーディネーターと担任が連携する。

児童生徒の心の SOS をキャッチし、適切な支援をしていくためには、表に見える言動だけでなく背景や要因まで考えることが大切です。そのためには、学校内で担任一人に任せるのではなく、児童生徒を多面的に捉えるシステムの構築が必要になります。教職員が見取った情報を共有する場(校内ネットワーク等)を設定しましょう。



## 多面的な理解 ⇒ 適切な支援に！



(「アセスメント力向上パッケージ」(県総合教育センターHP)から)

また、予防的・開発的な生徒指導も大切です。児童生徒が学校で安心して過ごせる「居場所づくり」を進め、お互いに認め合い支え合うような「絆づくり」につながる場面を意図的に設定していきましょう。

## 【不登校やいじめの未然防止に ～開発的生徒指導の具体的な取り組みを～】

### 居場所づくり

児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を**教職員**がつくる。

- ・学級の中で守るべきルールを全員が納得の上で徹底する(いじめや暴力を許さない)。
- ・課題や人間関係の悩みを抱える児童生徒に寄り添う。
- ・対人関係のトラブルが起きないようなソーシャルスキル教育を行う。
- ・児童生徒が互いに自己開示を行ったり協力したりするような取組を行う。



### 絆づくり

主体的に取り組む協働的な活動を通して**児童生徒**自らが絆を感じ取り、紡いでいく。

- ・全ての児童生徒が活躍できる場面を経験する中で、「自己有用感」が高まり、互いを大切に作る集団づくりにつながっていく。
- ・話し合いで互いに異なる意見を理解し、合意形成を図る中で、人間関係づくりの力を養っていく。
- ・他者と協働して一つのことをやり遂げる活動を通して社会性を身に付け、児童生徒間の心の結び付きや信頼感を高めていく。

# 羅針盤

令和3年度 第8号 (通算334号)

令和3年11月19日 (金) 発行

岡山県総合教育センター 企画部

Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

## ユニット研修プラス<授業づくり編>の紹介

昨年度「教育の情報化ユニット研修<GIGA 端末導入期編>」を作成しましたが、この度、ICT活用指導力の次のステップとして、「**教育の情報化ユニット研修プラス<授業づくり編>**」を作成し、順次公開しています。

新しく掲載した2つのユニットの概要と研修資料の一部について下記にまとめましたので、御参照ください。

### <Web画面のイメージ>



出典: <https://www.pref.okayama.jp/page/745343.html>

## デジタル・シティズンシップ UNIT 02

「デジタル・シティズンシップ」とは、「**情報技術の利用における適切で責任ある行動規範**」のことです。このユニットでは、「情報モラル」「情報セキュリティ」「個人情報の取扱い」「著作権」など、情報社会の光と影の部分に関連付けて学びます。

授業では、右の18の各項目と学習内容とを結び付けて指導すると効果的です。更に、教員研修や保護者への啓発などにも活用できます。

### その言葉大丈夫？



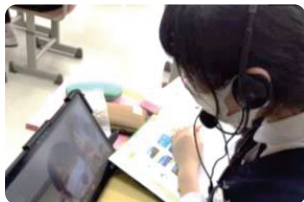
### 知っておきたいネットのこと

- A デジタル機器との付き合い方 (健康への配慮・ネット依存)
  - 1 正しい姿勢で 2 目を休めよう 3 夜寝る前は
- B 情報セキュリティ(アカウントの管理)
  - 4 パスワードは家の鍵 5 共有機能に注意 6 おかしいと思ったら
- C 個人情報とアクセス履歴
  - 7 個人情報とは 8 加害者にならないために 9 消せない足跡
- D ネット上の情報の取扱い(著作権・肖像権)
  - 10 その情報信じていいの? 11 作品を大切にしよう
  - 12 撮った写真は誰のもの?
- E オンラインのコミュニケーション(ネットいじめ)
  - 13 みんな同じかな? 14 その言葉大丈夫? 15 なりますとは?
- F もしもトラブルが起きたら
  - 16 ひと休みする 17 想像する 18 相談する

※研修資料に掲載しているコンテンツ

## 遠隔技術を活用した学習指導 UNIT 03

遠隔技術を活用した学習指導には、災害時や休校時の遠隔授業だけでなく、**ハイフレックス型**の授業や離れた学校どうしをつなぐ授業など、様々な形態があります。本ユニットでは、校内に今ある機材ですぐに始められる効果的な遠隔技術の活用について学びます。

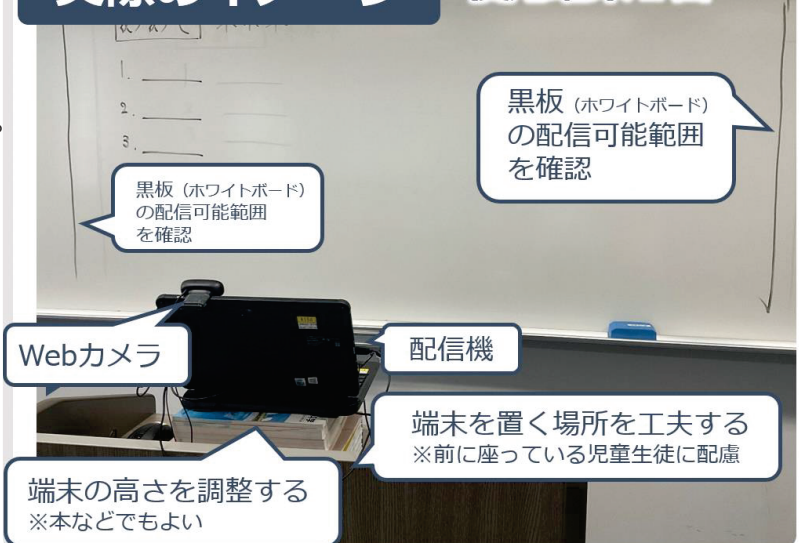


合同遠隔授業



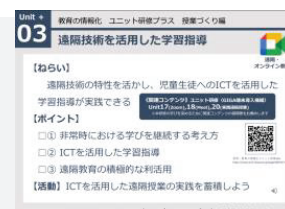
### 実際のイメージ

### 使用端末1台



※研修資料に掲載しているコンテンツ

岡山県総合教育センターで作成しているユニット研修は、動画とPDF資料で構成され、動画の再生時間は約10~20分となっています。個人での研修だけでなく、校内研修や地域単位の研修でも利用いただけますので、積極的に御活用ください。



教育の情報化ユニット研修プラス<授業づくり編>  
<https://www.pref.okayama.jp/page/745343.html>

# 羅針盤

令和3年度 第9号 (通算335号)

令和4年1月28日(金) 発行

岡山県総合教育センター 企画部

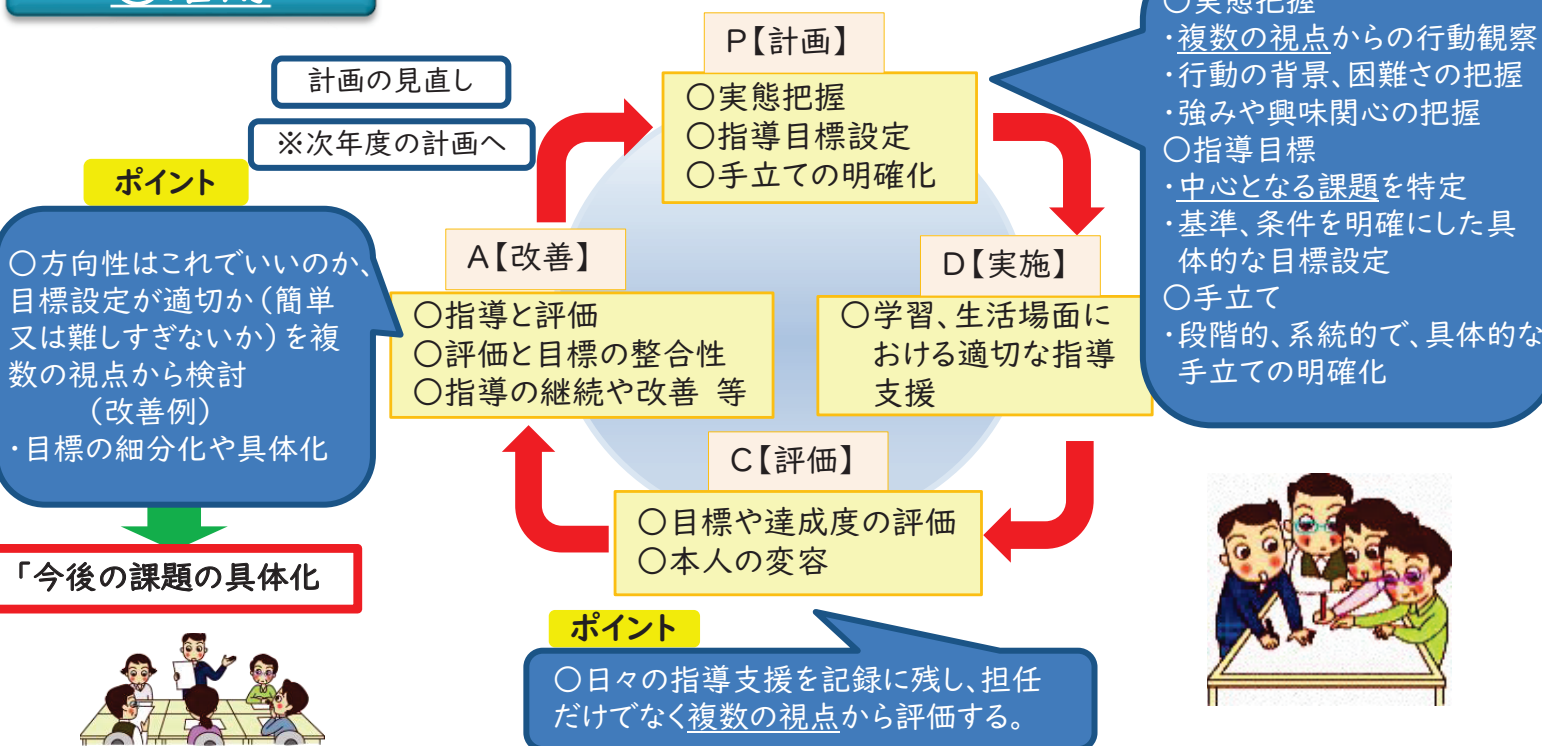
Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

## 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用と引継ぎ

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、特別な支援を必要とする児童生徒のきめ細やかな指導や支援を組織的・継続的、かつ計画的に行うために大変重要です。特に「個別の教育支援計画」を踏まえ、1年間の指導目標や指導内容・方法を具体化するために作成する「個別の指導計画」は、作成に留まらず日々の指導支援に活かしていくことが大切です。年間を通して P【計画】D【実施】C【評価】A【改善】のサイクルを繰り返し、対象児童生徒の育ちに合わせた適切な支援と必要な指導につなげ、更には、その指導支援に関わる者で共有して、繋いでいくことができるように活用していく必要があります。今回は、「個別の指導計画」に焦点を当て①活用②引継ぎの二つの視点からポイントを整理したいと思います。

### ①活用

#### ポイント



◎年間を通してチームでPDCAサイクルを回しながら行った指導支援の内容を「個別の指導計画」に位置づけていきましょう! そのためには関わる支援者同士の情報交換できる場と関係づくりが大切です。

### ②引継ぎ

「引継ぎ」では、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に記載されていることだけでなく、困難さの背景にある要因と目標設定や支援策とを関連づけて引き継ぎます。「なぜその目標設定をして指導したか」「効果的な指導・支援はどんなことで、なぜ効果があったのか」「どんな力が身につくと学習や生活がしやすいか」等、チームでPDCAサイクルを回して指導を進めたプロセスや振り返ったことも含めて内容を整理して引き継ぐ必要があります。そして、引き継いだ側も引き継いだ内容から、新しい環境の中における児童生徒の姿を想定し、必要な指導支援を明確にし新年度の準備をしていきましょう。

# 羅針盤

令和3年度 第10号 (通算336号)

令和4年3月14日(月) 発行

岡山県総合教育センター 企画部

Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

## ユニット研修プラス〈授業づくり編〉の新しいコンテンツ

### 「校内の推進体制づくり」、「主体的な学習活動につながるICT活用」の紹介

県総合教育センターでは、「教育の情報化ユニット研修プラス〈授業づくり編〉」を作成し、順次公開しています。この度、新しく掲載した2つのユニットの概要と研修資料の一部を紹介します。

#### UNITプラス01

#### 校内の推進体制づくり

推進体制づくりに  
必要な3つの視点

このユニットでは、令和2年度から3年度にかけて行った各学校への取材等から見てきた、推進体制づくりに必要なことを右図のように3つの視点にまとめました。管理職や研究主任がリーダーシップを発揮した、学校の実態に応じたICT活用を進める取組や、朝礼連絡や職員会議のペーパーレス化などの取組、学校のニーズに応じた教職員全員を対象としたすぐに活用できる研修の取組など、多くの実践事例を紹介しています。



#### 視点 1

リーダーシップと組織体制の整備



#### 視点 2

校務の情報化と授業外での活用



#### 視点 3

組織的なスキル向上につながる研修の充実

※研修資料に掲載しているコンテンツ

#### UNITプラス04

#### 主体的な学習活動につながるICT活用

主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善や課題解決型学習の推進には、児童生徒のより主体的な学習活動が必要になってきます。このユニットでは、児童生徒が主体的な学習活動の中でICTを活用するにはどうすればよいか、ICT活用の視点と教員の意識の変化に注目し、効果的な活用と教員の意識のステップアップについて、具体的な実践事例とともに紹介しています。

#### POINT! ～ 主体的な学習につながる3つのステップ ～

Step1 Step2 Step3

主体的な学習活動の充実

#### Step3

「児童生徒がどう活用するか」  
・児童生徒の学習活動の視点でICT活用を考える

#### Step2

「教員が児童生徒にどう活用させるのか」  
・教員の視点でICT活用を考える

#### Step1

「どんな授業場面で活用できるのか」  
・教員がICTを活用した授業場面をイメージする

#### Step2

教員の意識のステップアップ

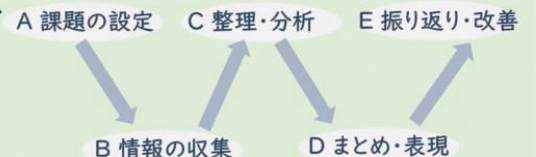
GIGAスクール  
環境活用分類

9つの視点



#### Step3

主体的な学習活動につながる  
学びのプロセスを意識



#### Step3

D まとめ・表現 例

ICT活用例（実践事例より）

まとめと発表にSlidesを使っている  
／井原市立芳井小学校  
4年生の「社会科」の授業で、ごみについて学習し、ごみの量など、学習したことをSlidesを使ってまとめている。また、まとめたことを各学年の教室へ行き、自分たちが場も設定し、発表まで行うことができる。



※研修資料に掲載しているコンテンツ

岡山県総合教育センターが作成したユニット研修は、動画とPDF資料で構成され、動画の視聴時間は約10～25分となっています。個人での研修だけでなく、校内研修や地域単位の研修でも利用いただけますので、是非、御活用ください。

ユニット研修プラス



<https://www.pref.okayama.jp/page/745343.html>



# 羅針盤

令和3年度 第11号 (通算337号)

令和4年3月14日(月) 発行

岡山県総合教育センター 企画部

Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

## 研修動画「非認知能力の育成方法②」の紹介

羅針盤令和3年第5号「非認知能力の育成に向けて」でお知らせしたeラーニング用研修動画のPart2を当センターWebページにアップしました。今回の動画では、非認知能力について、**具体的な育成の方法**や、岡山県教育委員会が推進している**夢育**に関連した**4つの力**とそれぞれの事例、非認知能力の**アセスメント**について紹介しています。校内研修や個人での研修にぜひご活用ください。

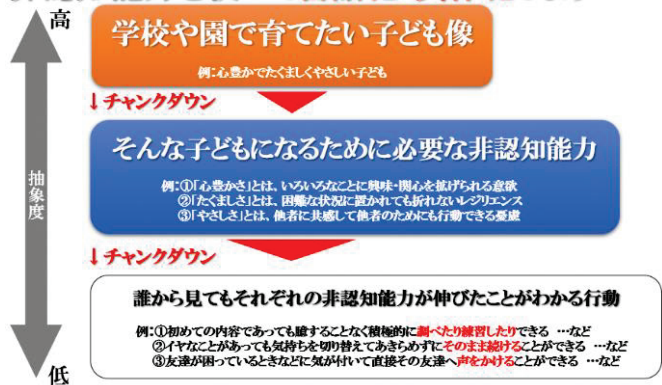
### 〇動画のポイント

#### 非認知能力の言語化・具体化

まず、抽象的な言葉で表現されていることが多い教育目標や「子ども像」を具体化(チャンクダウン)し、そんな子どもになるために必要な非認知能力に言語化します。

さらに、その非認知能力を行動指標ステージに具体化します。そのときのポイントは、誰から見てもそれぞれの非認知能力が伸びたということがわかる行動にまで落とし込むことです。そうすることで、児童生徒も目指す自分たちの姿がはっきりし、教師もどのようなことができていたら目標とする姿に近づいているのか、見取りやすくなります。

#### 非認知能力を使って言語化・具体化しよう



出典：岡山大学准教授 中山芳一

#### 非認知能力で伸ばしたい力と夢育ロゴマーク

岡山県教育委員会では、子どもたちの学びの原動力である夢を育む「夢育」を推進しています。夢育ロゴマークは、「夢育を通して育てたい非認知能力」を表すアイコンで、「自分と向き合う力」、「自分を高める力」、「他者とつながる力」、「地域とつながる力」の4つの力を表しており、学校の教育活動でも使用することができます。

研修動画ではこれら4つの力を育成している岡山県内の小・中・高等学校での事例を紹介しています。また、これらの力を育成する際に活用できる、岡山県の夢育アドバイザーの岡山大学 中山芳一准教授が作成したブラッシュアップシートを動画内で紹介しています。

新しい何かだけじゃない、いまやってるそれこそギミック！  
ギミックブラッシュアップシート

|             |      |                  |  |  |
|-------------|------|------------------|--|--|
| テーマ<br>〈固定〉 |      |                  |  |  |
| 目標<br>〈固定〉  |      |                  |  |  |
| 本時の<br>内容   | 単元名  | （第 期）            |  |  |
| 本時の<br>ねらい  | 授業名  |                  |  |  |
| 本時の<br>ギミック | タイム  | 授業開始して 分岐から 分岐まで |  |  |
|             | イメージ |                  |  |  |
|             | ギミック | 環境<br>の<br>構成    |  |  |
|             |      | 教員<br>の<br>設定    |  |  |
|             |      | 活動<br>の<br>設計    |  |  |
|             |      |                  |  |  |
| 感情の<br>揺れ動き |      |                  |  |  |
| 振り返り        |      |                  |  |  |

DOWNLOAD

DOWNLOAD

出典：岡山県教育庁教育政策課 出典：岡山大学准教授 中山芳一

#### 非認知能力の評価について

非認知能力を具体的に言語化・構造化して「行動指標」にすることでアセスメント項目として可視化することができます。このアセスメント表をルーブリックとして活用することで、児童生徒は自らを振り返り、教師は成長した姿を見取ることができるようになります。動画では久米南町立弓削小学校の「自分を高める力」のルーブリックを紹介しています。

| 弓削小学校『自分を高める力』ルーブリック                   |     |                            |
|----------------------------------------|-----|----------------------------|
| できない、わからない<br>課題に直面したときの<br>『自分を高める力』  | 低学年 | ①「自分」の言葉で自分の考えを表現することができる。 |
|                                        | 中学年 | ②「自分」の言葉で自分の考えを表現することができる。 |
|                                        | 高学年 | ③「自分」の言葉で自分の考えを表現することができる。 |
|                                        | 高校  | ④「自分」の言葉で自分の考えを表現することができる。 |
| 難しいや美事な場面<br>で感情と態度をどうする<br>の『自分を高める力』 | 低学年 | ①「自分」の言葉で自分の考えを表現することができる。 |
|                                        | 中学年 | ②「自分」の言葉で自分の考えを表現することができる。 |
|                                        | 高学年 | ③「自分」の言葉で自分の考えを表現することができる。 |
|                                        | 高校  | ④「自分」の言葉で自分の考えを表現することができる。 |

DOWNLOAD

出典：久米南町立弓削小学校

研修動画及び  
ダウンロード  
資料はセン  
ターWebペ  
ージから！

